

# 公共育成牧場における飼養管理技術の改善

十勝農業改良普及センター十勝西部支所 地域係

## 1 活動対象および概要

活動対象：新得町畜産振興公社（新得町営育成牧場）職員：13名

概要：年間受入可能頭数：ほ育牛860頭、育成牛(放牧)1,550頭、舎飼1,260頭  
草地面積(放牧731.9ha、採草161.3ha)、飼料畑面積(31ha)

## 2 背景・ねらい

### 背景

#### ● 預託農家の悩み

- ・ 放牧から帰ってきた牛が小さい、痩せてる
- ・ 生産乳量にも影響



預託農家

#### ● 町営牧場の現状

- ・ 牛の増体状況の判断基準が知りたい
- ・ 痩せた牛の対処が遅れてしまう



牧場職員

#### ● 放牧中の育成牛の成育を調査すると

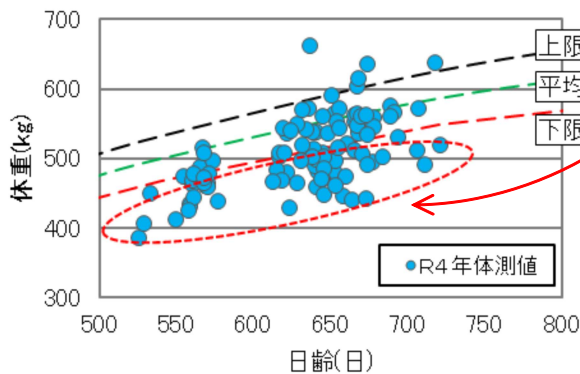


図1 日齢と体重

ホルスタイン協会が示す成長曲線の範囲の牛が少ない(45%)  
= 低体重牛が多い

ねらい

その1

低体重牛の増体を図る！

その2

牧場職員が牛の増体はどうか判断できるようになる！

## 3 活動の経過

放牧牛の増体に向けて関係機関と連携し、次の活動を行った。

### (1) 低体重牛の増体に向けた対策

- 対策① 放牧前に低体重牛を見つけ、継続して舎飼いし、TMR給与。
- 対策② 植生不良の放牧地に放牧する牛に配合飼料1kg/頭/日を給与。
- 対策③ 分娩4か月前に体重確認し低体重牛を舎飼いにしてTMR給与し、分娩2か月前に預託農家へ。



関係機関との連携

### (2) 牧場職員の放牧牛増体状況の判断技術向上

ボディコンディションスコア(BCS)判定の講習を行い、体測の値を考慮し放牧牛の良否判定を行った。



放牧前の体測



放牧地での配合飼料給与



体測およびBCS判定講習(4回)

## 4 活動の成果

適正範囲内の頭数の割合 現状:45%→目標:60%→結果:60%

### (1) 低体重牛の増体に向けた対策

#### 対策① (舎飼いの継続)

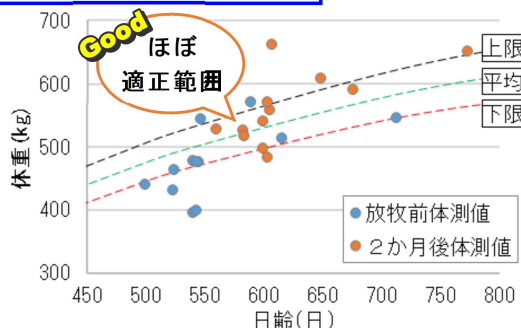


図2 舎飼いによる増体の変化

#### 対策② (配合飼料給与)

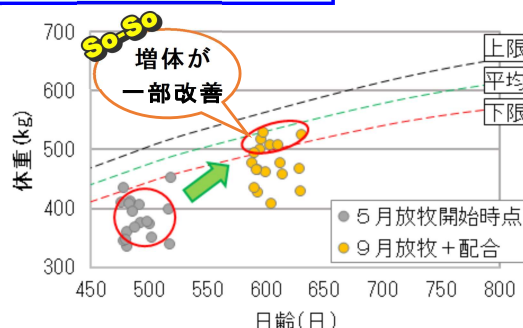


図3 配合飼料給与による増体の変化

#### 対策③ (分娩4ヶ月前に舎飼い)

Q. 放牧から戻ってきた牛の状態は？



Good

良くなったように感じるね



預託農家

#### R5年の結果は

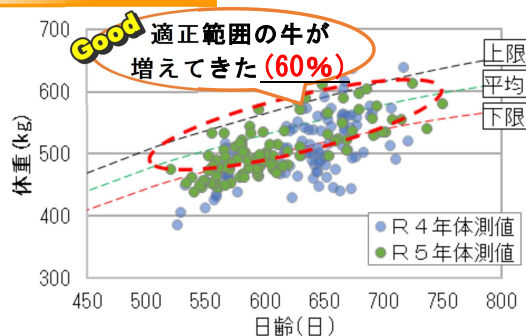


図4 R5年とR4年の測定値の比較

### (2) 牧場職員の放牧牛増体状況の判断技術向上

Good BCS判定は牧場職員13名のうち5名が「できる」「ややできる」と答えた。残りの職員についてもBCS判定の習得に意欲的になっている。

痩せた牛を舎飼いにする判断を早くできるようになった。  
適正範囲に入らない牛もまだ多いから、飼養管理を見直して増体を図りたい。



牧場職員

## 5 今後の対応

放牧地では、増体が適正範囲に達しない牛もいることから、継続して関係機関と協力して活動を続ける。

### (1) 放牧地の植生改善に向けた対応

追播、雑草防除、適正施肥について優先順位をつけて提案を行う。

### (2) 飼養管理改善、飼養管理技術向上に向けた対応

ア 放牧技術の習得、適正な放牧圧を目指した頭数管理

イ 植生に合わせた配合飼料給与の決定、低体重牛の早期舎飼い、牛の見分け方の習得は継続する。

### (3) ほ育育成初期の飼養管理改善

成育のバラつきを小さくするため、ほ育育成牛の飼養管理改善にも取り組む。